



世界保健デーあおぞら健康チェックに50人

松源中黒店で岩出支部

4月12日(火)午後2時30分から「4・7WHO世界保健デー」ましかど健康チェックを実施しました。

松源中黒店(岩出市西部)は初めての実施で、会場の使用をお願いに行った時は即快諾いただき、当日は、店舗の入口に実施のチラシを掲示してくれていました。

今回初めての試みで、事前に周辺へチラシを約250枚配布し実施をお知らせしました。



お店にチラシの貼り出しも

チラシの効果もあったようで開始時間に合わせて来た人も多数あり、血压、体脂肪、骨密度測定のコックを50名が受け、松源の店長はじめ一部に職員も受診しました。

「このように近くで受けられてうれしい」「骨密度が低いがどうすればよいか」など喜んでもらった取り組みでした。

終了後、店長にお礼に行くと「またやってください」と言われ、「毎年お願いします」とお願いしました。



避難所で疲れた身体を癒す足湯に行列 第5次東日本大震災支援報告会開催

4/3~7日まで、東日本大震災で宮城へ支援に入った、看護師の清瀬さん、事務の植村さんの支援報告会が、4/13に行なわれました。

清瀬さんは、多賀城市文化センターの避難所(約1000人)で、体調の悪い方への診療介助や車椅子生活のための清拭などの

介助を行なったそうです。日中は片付けや仕事にでる方が多く、診療が混雑することもなく、回診に付きながら残っている方々に声をかけ、日常の様子や困っていることなどがなかなどゆっくり話を聞くことができたようですが、夕方からは避難所に戻ってこられる方が一気に増え、風邪、花粉症、胃腸炎、怪我とたくさんの方が押し寄せる現状だったようです。となりでは足湯(足浴)が行なわれ、かなり好評でたくさんの方が行列をつくって



いました。疲れた身体が癒され、暖かいお湯に浸かりながら笑顔で話される姿が印象に残ったそうです。今回災害支援を初めて経験し、全国から民医連や医療生協の支援者を受け入れ、正確な情報把握と支援の組み立てを行い、迅速な活動の方向を決めていく、この組織のすごさをあらためて感じたそうです。そして、支援を共にした仲間の人たちとの出会いは暖かく、力強く、頼もしく、強い連帯感を感じたと報告されました。最後に、今後の避難生活も環境、衛生面からかなり厳しい生活が長期に続くと思われ、余震、原発問題などいろいろありますが、今後も、「現地ですること、和歌山ですること」を考えたいとのべました。

植村さんは、隣町の七ヶ浜町に行く機会があって、車窓から見たこともない風景が広がり、海に近い低いところは、家の基礎しか残っていない。もう少し高いところは、1階をさらわれていた。更にもう少し高いところある家は一見無事に見えたそうです。しかし、ほんの少しの差で被害が全く違うことを目の当たりにしたそ



うです。植村さんの役目は、避難所診療チームの担当事務で、多賀城市文化センターの診療班と足浴班を担当し、必要物資の調達、調整、連絡などの業務を行ないました。現地に行き感じたことは、テレビや新聞で見る被災地は画面・紙面の幅だけであり、現地では自分の周り360度が被災地だったと報告されました。



青法協憲法記念行事 憲法を考える夕べ



講師 伊波洋一氏

普天間基地と
日米安全保障条約

講師プロフィール

1949年生まれ 和歌山県和歌山市出身
1970年 和歌山大学卒業
1971年 和歌山県庁勤務
1974年 和歌山県庁勤務
1977年 和歌山県庁勤務
1980年 和歌山県庁勤務
1983年 和歌山県庁勤務
1986年 和歌山県庁勤務
1989年 和歌山県庁勤務
1992年 和歌山県庁勤務
1995年 和歌山県庁勤務
1998年 和歌山県庁勤務
2001年 和歌山県庁勤務
2004年 和歌山県庁勤務
2007年 和歌山県庁勤務
2010年 和歌山県庁勤務
2013年 和歌山県庁勤務
2016年 和歌山県庁勤務
2019年 和歌山県庁勤務
2022年 和歌山県庁勤務

2011

4/28 木

午後5:30分開場/6:00開演
プラザホール4階ホール
和歌山市北出島1丁目5-47

入場無料



主催◎青年法律家協会和歌山支部

連絡先/和歌山市十二番丁10 和歌山中央医療生活協同組合 TEL. 073(43)2241